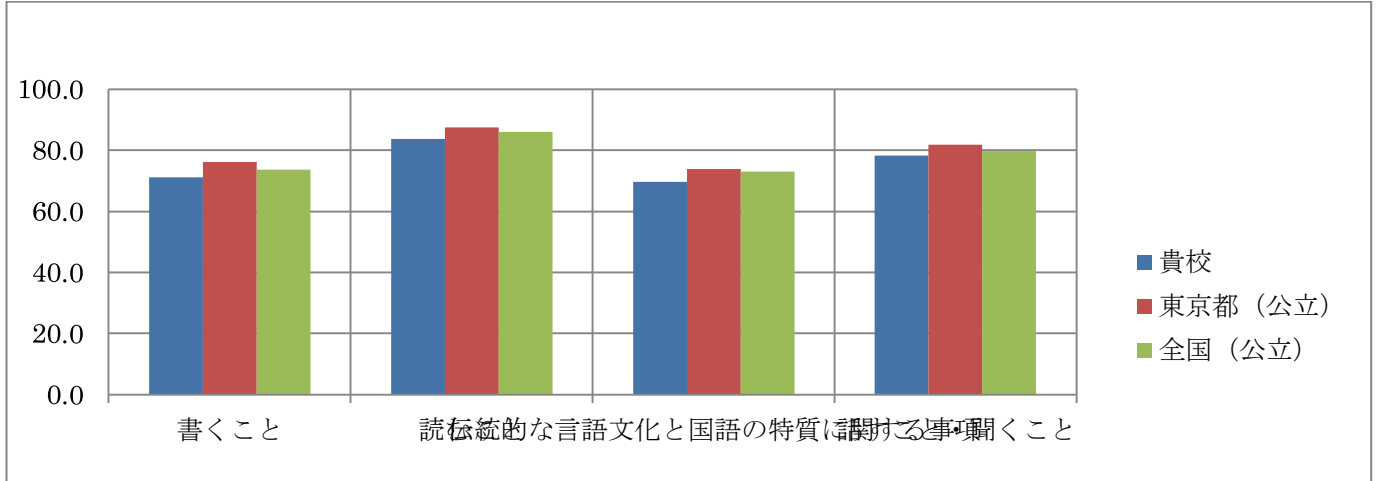


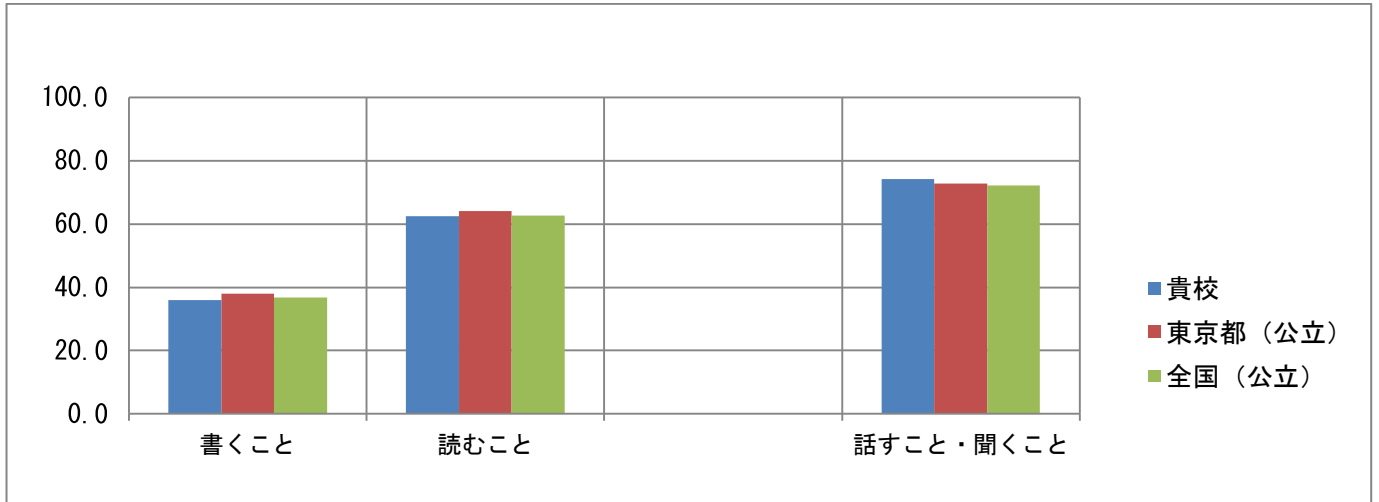
1. 分類ごとの平均正答率

(1) 国語A：主として知識



① 全観点で平均点を下回っている。

(2) 国語B：主として活用



① 「話すこと・聞くこと」の観点では、東京都・全国平均を上回っている。国語の授業に限らず、学年で発表活動を何度か行った成果だと考えられる。

② 「書くこと」「読むこと」の観点では、平均点をわずかに下回っている。

2. 調査問題から見た問題

(1) 書くこと

- ①資料の読み取りを踏まえた条件作文が苦手である。
- ②社会に対する自分の意見をもつのが難しいようである。

(2) 読むこと

- ①グラフの読み取り能力が低い。

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ①文法（品詞の識別など）に関する知識が低い。
- ②ことわざや慣用句に関する知識が低い。
- ③擬態語や倒置法といった基本的な表現技法に関する知識が低い。
- ④語彙力が不足している。

(4) 話すこと・聞くこと

- ①相手の反応を見ながら話すこと、質問をすることにやや苦手意識が見られる。

3. 指導改善のポイント

(1) 書くこと

- ①作文の際に条件を提示する。
- ②新聞記事や社説を授業で活用し、自分の意見をもたせる。

(2) 読むこと

①グラフの読み取りを単元に意図的に組み込む。

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

①文法は、復習の機会を増やすことで、定着を図る。

②ことわざや慣用句に親しむだけでなく、小テストなどを実施する。

③辞書を引く機会を増やし、語彙力を増やしていく。

(4) 話すこと・聞くこと

①授業でも、スピーチや討論の場面を積極的に取り入れる。

②一方的に話すだけではなく、話し合う機会、質問をする機会を設定したい。